

## 別記

### 審議概要

#### 1 公開案件の審議

##### (1) 報告1 世界遺産子どもサミットの開催結果について

- ア 説明員 山上生涯学習推進局長兼文化財・博物館課担当課長
- イ 結論 報告を了承
- ウ 審議内容

#### 【山上生涯学習推進局長兼文化財・博物館課担当課長】

先月26日に開催した世界遺産子どもサミットについて、報告します。

昨年7月に「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録され、これを契機とし、構成資産の所在する北海道・北東北の子供たちが、日頃の学習や活動の成果をオンラインで発表し、他の地域の取組などにも興味を広げることにより、世界遺産の関心を高め、文化財の保護や地域の歴史・文化の理解、郷土への誇りと愛着の醸成を図り、保護・活用の一層の推進につなげていくため、このサミットを開催しました。

別紙の「4 実施内容」を御覧ください。当日は、青山委員に司会をお引き受けいただきました。まず、国の文化審議会世界文化遺産部会の委員でもある筑波大学の黒田教授の講演では、御自身が実施した世界遺産学習の実践例から、身近にある世界遺産が世界とのつながりを考えるきっかけになることなどを紹介いただきました。

続いて、参加した子供たちから、地元の世界遺産の特徴や縄文時代についての学習成果を、生き生きと、見ている人が分かりやすく楽しめるように工夫を凝らした発表がありました。当日の様子については、次のページに写真を載せていますので、併せて御覧いただきたいと思います。

主な発表内容ですが、まず、道内の函館市立臼尻中学校の皆さんからは、南茅部地区の小・中・高校生が連携した、地域の縄文を盛り上げるための交流会について、千歳市立千歳第二小学校の皆さんからは、自らが作成したクイズを交えた動画による遺跡の紹介、洞爺湖町の皆さんからは、町内の三つの小学校で行った土器づくり体験などについての発表がありました。

また、北東北の青森県青森市立三内中学校の皆さんからは、修学旅行先での三内丸山遺跡のPR活動、秋田県北秋田市伊勢堂岱遺跡ジュニアボランティアガイドの皆さんからは、小・中・高校生が、5月の連休に実施した遺跡ガイドの体験について、岩手県一戸町御所野愛護少年団の皆さんからは、試行錯誤しながら、矢が遠くに飛ぶ方法を考えたことなど、それぞれの特色ある取組の発表がありました。

参加した子供たちからは、「地元の世界遺産の特徴について分かりやすく説明できた。」、「縄文時代についてもっと学習したいという意欲が湧いてきた。」、「他の地域の取組が大変参考になった。」、「これまで学んだ縄文人の技術や知恵をたくさんの人たちに伝えていきたいと思った。」などといった感想が寄せられました。

最後に、別紙の裏面ですが、今後も縄文時代について学習し、世界遺産を未来に受け継いでいくという決意を共同宣言として、参加した子供たち全員が思いを込めて読み上げました。この子供サミットを契機として、今回発表のあった、各地域での特色ある取組を参考としながら、今後は、各学校・団体での自主的な活動がより一層活発になり、全道各地へ広がっていくことを期待しています。

説明は以上です。

**【倉本教育長】**

御質問や御意見はありませんか。

**【青山委員】**

当日は本当にお世話になりました、ありがとうございました。

秋田県と岩手県の素晴らしいプレゼンテーションに感動したのですが、北東北の子供たちは、親子3世代、あるいは4世代にわたって受け継がれてきた世界遺産への思いが染みこんでいるところがありました。

これまでの取組の歴史や厚みも考えると、北海道は、これからのところもあるように感じて、少し悔しい思いもありましたが、子供たちは、頑張ってプレゼンテーションしていて、大健闘していました。今回を機に、ジュニアボランティアガイドの皆さんや御所野愛護少年団の皆さんのプレゼンテーション力、熱い思いから得たものを生かして取組を進め

ていただければ、子供たちも、もっと北海道のことが好きになると思いますので、期待を込めて見守っていきたいと思います。

**【川端委員】**

北部ブロック道県教育委員協議会で三内丸山遺跡を視察しましたが、一つの場所にあれだけ大きな遺跡があるというのは、大きな影響力があるのだろうと感じました。北海道は遺跡が点在しているので、また違うと思いますが、その中で南茅部地区の学校は連携して、頑張っ取り組んだのだなと感じました。

このサミットに限った話ではありませんが、地元についての学習は探究授業につながるものだと思いますので、プレゼンテーションの映像を見てもらい、「こういうふうに伝えれば良かったのかな。」「自分はこれでは調べが足りなかったかな。」など、学びを深める材料にしてもらえると良いのかなと思います。このサミットで得られたものを、もっと強く発信できる方法を考えてもらえると嬉しいです。

**【青山委員】**

多くの子供たちに見てもらいたいですね。

**【山上生涯学習推進局長兼文化財・博物館課担当課長】**

今回、開催日が土曜日だったのですが、次回に向けて、開催する曜日、また、録画の発信についても、検討していきたいと考えています。

**【清水委員】**

プレゼンテーションが非常に素晴らしかったということですが、他の子供たちに見てもらい、日々の学習の中に取り入れて参考にしてもらいたいので、そのような仕組みができていけば良いと思います。

日々の学習の結果を発表するというのですが、今後も、このような場というのは、継続的に予定されているのでしょうか。

**【山上生涯学習推進局長兼文化財・博物館課担当課長】**

今回は1回目ということで、高校生が入っていなかったのですが、次回は入ってもらうほか、他の地域資源を活用した取組なども取り入れた内容にしていきたいと考えています。

**【倉本教育長】**

今、教材なども作っていると思いますが、その紹介をしてもらえますか。

**【高見文化財・博物館課長】**

今年度、義務教育などでの活用に向けて、1人1台端末で自由に角度を変えて見るができるよう、それぞれの構成資産のVR映像や、なかなか直接触れることができない土器等の3D映像などの教材を作成しています。例えば、構成資産であれば、竪穴住居に入って火が燃えているところを見るといった活動を通して、縄文時代の人々の暮らしなどを学んでもらえるようなものです。

そして、それを学校でどのように活用するかについてですが、指導案も含めて、義務教育課で検討している状況です。来年度、学校で具体的に授業の中で活用してもらえるように、3月までに準備を整えるよう取り組んでいます。

今は、ストーブも火が見えないものが多く、家の中で火を炊くという経験がない人が多いので、「家の中で火を炊いてもいいんですか。」といった反応があるなど、子供たちが、そうしたところに興味を持つということについて、教員の側が気付く機会にもなっているということで、現場の授業で実際に使ってもらいながら、どのような授業にしていくか考えているところです。

**【青山委員】**

今回のサミットは、プレゼンテーション力を高める教材にもなり得ると思いますので、許可をもらい、映像をアーカイブにして、子供たちに見てもらいたいと思います。世界遺産を知るということも、もちろん大事ですが、どのように伝えれば、相手に伝わるのかということについても、北東北の子供たちのプレゼンテーションは、とても刺激になりましたし、北海道の子供たちも、学ぶべきところがあるように思いました。

**【倉本教育長】**

ほかに御質問や御意見はありませんか。

≪委員から質問・意見なし≫

**【倉本教育長】**

それでは、以上で本件の審議を終わり、報告を了承します。

(2) 議案 令和5年度予算概算要求の基本方針について

ア 説明員 山本総務政策局長兼幼児教育推進局長

イ 結論 原案どおり決定

ウ 審議内容

【山本総務政策局長兼幼児教育推進局長】

この基本方針は、北海道教育委員会の権限に属する事務の委任等に関する教育委員会規則第3条第21号の規定により、議決を必要とするものです。道では、毎年度、全庁的な予算編成の考え方として、予算編成方針を策定していますが、道教委においても、道の方針に沿って、毎年度、予算概算要求の基本方針を定め、これに基づいて予算要求を行うこととされています。

毎年度策定している方針は、大体、3・4ページのものですが、令和5年度（2023年度）については、4年に1度の知事選挙があり、政策的な予算については、当選した知事の下、選挙公約等を踏まえて編成されることとなることから、4月からの当初予算については、人件費や庁舎等維持管理費などの基本的経費を中心とした、いわゆる骨格予算となりますので、現時点の方針も、内容を絞った1ページのものとなります。

道では、来年度以降も収支不足額が生じる見直しにあることなどから、財政の健全化に向けて、切れ目なく取り組む必要があるとされ、施策や事務事業の徹底した精査やゼロベースの見直しといった歳出の「量的な削減」、既存事業の再構築やスクラップアンドビルドなどの取組を通じた「質の一層の向上」など、限られた財源の効果的・効率的な活用を図るとされています。

こうした中、道教委では、道の予算編成方針を踏まえつつも、学校の教育活動や児童生徒に直接影響のある経費や、当面する教育行政上の諸課題等に対応する施策予算の確保に向けて取り組むこととしています。

具体的には、「1 基本的事項」に記載のとおり、「(1) 学校教育を所管する教育行政の継続的な運営上、必要なものを要求」、「(2) 新型コロナウイルス感染症対策を始めとした情勢変化を踏まえた予算要求」、「(3) 政策評価を踏まえた見直しの予算への反映や、組織機構・職員

配置について検討」、「(4) 北海道スタイルの実践など徹底した経費の節減」に取り組むこととしています。

最後に、「2 枠配分の概要」ですが、収支不足の改善を図るため、歳出抑制に向け、教育庁を含む全ての部に対し、部単位での予算要求の上限額が示されますが、令和5年度予算については、6月開催予定の第2回定例道議会での補正予算計上時に、当初予算と合算させて枠が示されることとなります。

厳しい財政状況の中ではありますが、予算の執行上、学校の教育活動や児童生徒の学習指導、心のケア等に支障が生じないように、十分配慮しながら、予算を要求していく考えです。

説明は以上です。

**【倉本教育長】**

御質問や御意見はありませんか。

**【青山委員】**

資料中段に、内部的な経費については、最大限節減に努めることとし、これまで以上に事務の簡素化を図るとあります。電子化することによって、紙の削減はかなり進むのではないかと思います。いかがでしょうか。

**【山本総務政策局長兼幼児教育推進局長】**

ペーパーレス化というのは、基本的に、至上命題という形で進められており、顕著な例としては、電子決裁への移行が相当進められてきているということがあります。例えば、道教委本庁、教育局、所管機関を合わせた教育委員会全体の電子決裁使用率は、令和元年度（2019年度）が9パーセントに過ぎなかったのですが、今年度上期で49.8パーセントにまで上がってきています。中には、マイナンバーが記載された書類や原本確認が必要な書類など、電子決裁できないものもあるのですが、全体として、かなり大きく率が上がってきており、ペーパーレス化が進んでいるという実感があります。

また、学校などにおいても、職員会議などで、これまで紙で配付していたものを、端末上で表示するといった取組が進められていると聞いて

います。

**【青山委員】**

教育委員会で委員に配付される資料も、とても分厚いことがあります  
が、紙ではなく、PDFで見られると楽だと思います。もちろん、紙が  
良いという委員もいると思いますので、希望を聞いていただけると、非  
常に助かります。

**【山本総務政策局長兼幼児教育推進局長】**

早急に検討して、対応したいと思います。

**【川端委員】**

資料中段に、施設の維持・保全に要する経費等の確保に取り組むとあ  
りますが、コロナになってから、その対策に経費がかかり、保全に要す  
る経費に十分にお金を掛けられず、実際には保全が必要な学校というの  
が、かなり多くあるのではないかと思います。コロナも落ち着いたわけ  
ではありませんが、保全についても、しっかりと進めていただければと  
思います。

**【山本総務政策局長兼幼児教育推進局長】**

コロナ関係では、令和2年度補正予算で、コロナに対応する衛生環境  
の整備ということで、エアコンの設置、トイレの照明や洗浄水洗を非接  
触型のものにするなどの整備が進んでいます。これらは、私どもで確保  
している営繕予算とは別に、全額国費で措置できたものですが、その過  
程では、工事を担う事業者の人材や設備の調達の問題などにより、なか  
なか工事が契約まで至らなかったということを記憶しています。地域事  
情によって、やむを得ない部分もあるかとは思いますが、私どもとして  
は、施設設備の保全が遅延しないよう、しっかりと目を配りながら進め  
ていきたいと思っています。

**【倉本教育長】**

ほかに御質問や御意見はありませんか。

《委員から質問・意見なし》

**【倉本教育長】**

それでは、以上で本件の審議を終わり、原案どおり決定したいと思



ますがよろしいですか。

《委員了承》

**【倉本教育長】**

それでは、この件は決定します。

(3) 報告 2 令和4年度教育費補正予算案について

- 報告を了承